

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）
（デジタル実装タイプTYPE1）に係る事業実施結果報告
（交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値等）

【事業実施結果】
地方創生に非常に効果的であった
地方創生に相当程度効果があった

地方創生に多少効果があった
地方創生に効果がなかった

資料5

No	交付対象事業 の名称	事業期間	令和6年度 実績額 単位：千円	当該年度における重要業績評価指標（KPI）				当該年度における実績値				実績値を踏まえた事業の今後について	
				指標	単位		目標値	実績値	達成率	指標に対する事業実施結果		今後の方針	
1	高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト	令和4年度～令和6年度	31,596	指標①	「高校を核とした関係人口」の数（＝地域みらい留学生徒数+卒業後も地元に関わった大学生・社会人数+地域外からの高校への応援者数）	人	R 4 R 5 R 6	16 17 18	19 24 16	118.8% 141.2% 88.9%	地方創生に多少効果があった	●引き続き地域コーディネーターとの連携を強化し、加計高校の生徒主体の取組や国際交流、地域連携・貢献など特色ある学びを深化・継続できるように取り組む。また学校の魅力アップに向けて、学校での学習活動、部活動、国際交流活動等の支援を行うほか、公営塾、寮生活の支援を引き続き行っていく。 ●探求の時間を活用し、地域の課題解決を通して、安芸太田町の魅力を再認識するなど、町への愛着が持てる活動を推進していく。	
2	安芸太田町人材育成・交流拠点整備計画	令和3年度～令和7年度	0	指標①	広島県立加計高等学校への地域外からの入学者数	人	R 3 R 4 R 5 R 6 R 7	39 49 59 54 59	40 49 57 59 0	102.6% 100.0% 96.6% 109.3% 0.0%	地方創生に相当程度効果があった	●令和4年度から供用開始した「黎明館」は、地域の交流拠点としてのみならず、加計高校の寮としても活用している。また令和6年度中に開催した「あきおたの楽しい100人」では、加計高校の生徒が話し手となり、黎明館を会場として開催するなど、多数の地域の方との交流がはかれた。	
				指標②	拠点施設で開催する国際理解、地域課題解決研修参加者数	人	R 3 R 4 R 5 R 6 R 7	0 200 250 300 350	0 132 286 301 0	100.0% 66.0% 114.4% 100.3% 0.0%		●寮生会等で寮生からの発想・提案を実現できる仕組みをつくっており、国際理解や地域課題解決をテーマとしたワークショップを地域住民とともに開催するなど、地域との交流を目的とした利活用を積極的に行っていく。	
				指標③	加計高校卒業後の起業・創業件数	件	R 3 R 4 R 5 R 6 R 7	0 1 1 2 2	0 0 0 0 0	0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0%		●加計高校で展開しているローカルビジネス創出プログラムと連携を図り、この拠点を活用して生徒の起業マインドの醸成につながる取組を推進する。	

No	交付対象事業 の名称	事業期間	令和6年度 実績額 単位：千円	当該年度における重要業績評価指標（KPI）				当該年度における実績値				実績値を踏まえた事業の今後について	
				指標		単位		目標値	実績値	達成率	指標に対する事業実施結果	今後の方針	
3	教育DX推進 事業	令和5年度～ 令和7年度	63,169	指標①	児童生徒日常所見データ登録数	件/人 1年あたり平均	R 5	5	0	0.0%	地方創生 に相当程度効果が あった	【児童生徒日常所見データ登録数】 システム操作研修会を数回行い、都度所見データ登録の意味や方法を周知したことにより、2023年度の実績値より大幅に数値を上昇させることができた。 【AI型ドリルの活用頻度】 定期的な利用状況の把握とその情報を校長会、教頭会へ共有を行い、町PTA連合会を通じて保護者へAIドリルについて周知を行うことで、理解を求めることに努めた。宿題としての利用のみでなく、AIドリルの授業中の活用や、校内で一斉学習を行う時間を設け利活用を進めることができた学校があった。 【授業（教材）研究の件数】 教員がより良い授業を行うための授業（教材）研究にかけ時間や意欲が増加した。2025年度はさらに高い目標を掲げている為、より多くの教員が授業研究を行えるよう、システムを活用した更なる業務改善に取り組むと共に教育委員会指導主事から教員への授業研究の指導も重ねて行う。 【児童・生徒の自己肯定感を計測】 AIドリルの利活用が進んでいる学校においては、児童生徒が個別に提示される問題に取り組み個別の進度学習を進めることができていることも目標達成に寄与しているものとする。 【保護者への対応満足度を計測】 町PTA連合会を通じて保護者へ向け、本事業の取り組み内容や保護者へのアンケート結果について通知を行い、保護者への理解を求めることができた。	●校務支援システムについては、学校間や校内においても教員間でシステム操作の習得や意識に差が生れており、全体での取組みに繋がっていないことがある。引き続き教員のシステム操作の習得のため、操作研修会やICT支援員による個別のサポートを行い教員の基礎的な技術力を上げると共に、校長会、教頭会を通してデータ活用による児童生徒の個別最適な学びについて意識合わせを行い全体での取組みに繋げていく。 また、システムを活用した更なる業務改善に取り組み、教員が児童生徒に向き合う時間を増やし、児童生徒の学習や日々のデータを蓄積し、活用することで児童生徒の状況の把握に努め、児童生徒の学校生活を充実させる。 ●システムの導入により、積上げてきた児童生徒の各データを振り返ることで各児童生徒個々の状況を把握することができるため、情報を活用しながら児童生徒の学びへ繋げていけるよう、データの活用方法についてICT研修会のトピックとして設定することを企画している。
							R 6	10	8	80.0%			
							R 7	15		0.0%			
				指標②	AIドリルの活用頻度 週●回以上	平均起動回数 /週	R 5	1	1.6	160.0%			
							R 6	2	1.6	80.0%			
							R 7	3		0.0%			
				指標③	授業（教材）研究の件数	件/累計	R 5	30	52	173.3%			
							R 6	60	67	111.7%			
							R 7	100		0.0%			
				指標④	児童・生徒の自己肯定感を計測	%/1人あたり平均	R 5	65	85	130.8%			
							R 6	70	81	115.7%			
							R 7	75		0.0%			
				指標⑤	保護者への対応満足度を計測	%	R 5	60	91	151.7%			
							R 6	70	81	115.7%			
							R 7	80		0.0%			